2026 年 11 月

東武鉄道株式会社

2027 年３月期　第２四半期 決算補足説明 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、説明会での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q．上期の営業利益は当初計画比で 11 億円上振れしているが、費用の期ずれを除いた実質的な上振れ額はどの程度か。

A．営業利益の当初計画比 11 億円の上振れには鉄道業における修繕費・広告費の一部を下期に繰り延べた影響が入っている。それを除くと、概ね当初計画どおりの利益水準である。

Q．当初計画比の経常増益額が、営業増益額より大きい要因は何か。

A．営業外収益において、当初計画を上回る受取配当金や、当初見込んでいなかった雑収入の発生があったためである。

Q．運賃改定について現在どのような議論を進めているか。新鹿沼駅構内鉄道人身障害事故の影響はあるか。

A．運賃改定は最短での実施に向けて検討を継続している。安全対策は、運賃改定の実施有無にかかわらず着実に講じる。

Q．東京スカイツリーにおけるキャラクターとのコラボイベントは、どの程度の効果があったか。

A．ちいかわとのコラボイベントは、物販の売上増に大きく貢献しており、来場機会の創出につながるよう今後も工夫を凝らして様々なイベントを実施していく。

Q．レジャー事業の減益は、悪天候だけを要因として考えていいのか。例えば、ホテル業やスカイツリー業で、インフレ等により当初計画以上にコストは増加していないか。

A．ホテル業では、上期に施設維持管理に係るコスト等が発生したものの、想定を超えるインフレによる経費増加は見られず、通期では増収増益を確保する見込みである。

以　上